

【学校教育目標】 「自分とみんなのために 心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成」

【目指す児童像】 「気づく子 学ぶ子 元気な子」

# 玖城のほとり



大村市立大村小学校  
学校だより  
第17号  
令和8年3月6日発行  
文責：校長 堺 邦寿

## ★ 授業参観 ありがとうございました! ★

先月17日(火)、18日(水)、今年度最後の授業参観を行いました。保護者の皆様におかれましては、お忙しい中、学校へ足をお運びいただき、誠にありがとうございました。

各学年ともに、子どもたちは、授業時間だけでなく昼休み時間なども使って、この一年間の学習の成果を保護者の方に見ていただくために何度も何度も練習を重ねてまいりました。きっとお子様のこれまでの努力をお感じ頂けたものと思います。

私どもは、「教育とは、子供たちに潜む力と可能性を精一杯に引き出すこと」と捉え、日々の指導の中で、先を示したり、一緒になって考えたり、励ましたり叱ったりすることで、こつこつと「努力すること」の大切さ、「できた」という成功体験を通して、ほめて認めて自信をもたせるように努めてまいりました。今年度も残り2週間ほどとなりましたが、少しでも子供たちのよさを伸ばせるよう力を尽くしてまいります。



## ★ 6年生への感謝の気持ちを込めて ～ 6年生を送る会 ～ ★

先週、2月27日(金)、6年生を送る会を行いました。これまでお世話になった6年生に、1年生から5年生が感謝の気持ちを伝える会です。

1年生は、春夏秋冬の歌にのせて6年生に感謝の言葉を伝え、倍倍FIGHT!のダンスを披露しました。2年生は、1年間を通して指導してきた2ネンジャーに扮して、6年生のやさしい姿、頑張る姿、チャレンジする姿を、言葉や歌、ダンスにのせて紹介しました。3年生は、エーデルワイスのリーダーと赤い屋根の家の合唱を通して、感謝の気持ちを伝えました。4年生は、3種類のエールを披露し、これまでの感謝と中学生でもがんばってほしい気持ちを伝えました。5年生は、6年生から大村小学校のリーダーを引き継ぐことを決意し、ソーラン節の踊りを披露しました。5年生のソーラン節の最後には、6年生も一緒に踊りましょうと声をかけ、5年生と6年生のコラボによる盛大なソーラン節となりました。そして最後には、在校生に答える6年生から、「後は頼む」と言ってるかのような合唱「旅立ちの日に」に、会場は、互いの別れを惜しむ、何とも言えない雰囲気になりました。改めて、大村小学校の「子どもたちのよさ」を感じた瞬間でした。



1年生



2年生



3年生



4年生



5年生



6年生

※裏面に、木村指導教諭作成の「特別支援教育だより」を載せています。どうぞお読みください。

～みんなちがって みんないい (その10)～

早いですね、今年もひと月が過ぎました。

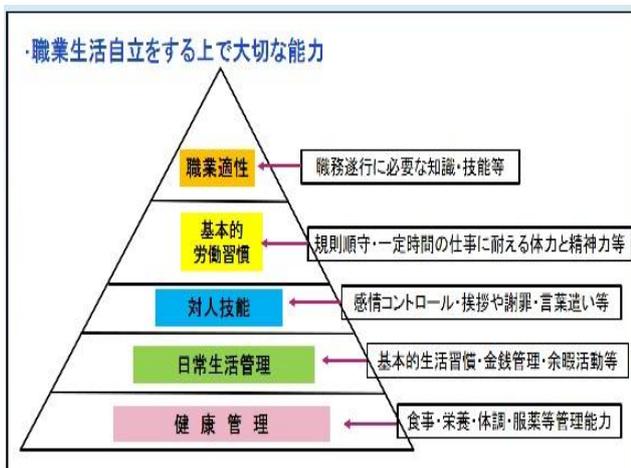
2026年の新成人(18歳)の人口は109万人と過去2番目に少ないそうです。新成人の人口は来年以降減少を続けていくそうですが、これは日本の総人口が減少していくことを示唆しています。同時に年齢別人口の逆ピラミッド化がますます進むことでもあります。日本経済の先細りが心配される現状を鑑みて、今回も昨年に引き続き、「就労自立」についてお話ししたいと思います。

2025年の大卒就職率は98%、短大卒97%、高卒98%と高い水準を維持しています。これは就職人口の減少と大いに関係がありますが、一方で3年以内の離職率は33.8%、完全失業者数は185万人と喜んでばかりはいられない現状です。

昨年はリーマンショックなど金融危機による失業・就労困難者の増加、コロナウィルスによる生活様式や働き方の変容についてお話ししました。そのような中で、継続的な就労に必要な能力についてお話ししました。

就職率だけを見れば仕事に就けない人は少ないように思いますが、「離職」「転職」を繰り返し、前職より良い条件の仕事に就ける割合は高くはありません。「離職」を繰り返すことは、再就職に関して言えば弊害になることの方が多く、「辞めなければ良かった…」と後悔することも少なくないと聞きます。

小学校で就労について考える必要があるのか疑問に思われる方も多いと思いますが、子どもから大人への成長は連続体であり、成長の過程で培う力が将来の「就労自立」に繋がっていくのだと考えていただければ幸いです。



左下に示した図は、昨年もご紹介した障害者職業センター所長を務めた相澤欽一氏著「精神障害者雇用支援ハンドブック」から転用させていただきました。この図で示されている就労に必要な力は、障害の有無に関わらず、すべての人たちに当てはまる就労に必要な能力です。

相澤氏によると、就労に必要な能力で最も大切なことは「学力」や「職業適性」などではないことが分かります。もちろんこれらも大切な能力ですが、個人の持つポテンシャルを発揮し、仕事を続けていくために必要な力は、それを支える基礎的な力だと分かります。

最も基礎となる力は「健康管理能力」で、これは「食事や睡眠などを含めた体調管理を自分でできる力」になります。小学生は一人ではできないことも多いので、保護者が身の回りの世話をしているとありますが、学年が進むにつれて一人であることを増やし、自立した際には自分で管理できる能力を身に付けておく必要があります。

その能力の上に「日常生活管理能力」が必要になります。これは「基本的な生活習慣や金銭の自己管理、余暇の使い方・人づきあい」などです。

「自分で起きて、遅れないように出勤する」「光熱費や税金、預金の管理をし、払えない借金を負わない」など、とても大切な能力になります。

この二つの能力を「ライフスキル」と言い、「就労」だけでなく「生きていく上で必要な基礎的な能力」となります。「一人で買い物に行く」「バスに乗って移動する」「電話に出て、受け答えができる」「困ったときに助けを求めると」など多岐に渡ります。携帯電話が普及した現代は、固定電話を設置されているご家庭も少なくなり、固定電話の使い方や対応の仕方などを知らない若者が増えています。仕事を始めると固定電話での受け答えは必要になりますから、機会があれば触れさせておくことも大切です。

この「基礎的な能力」「ライフスキル」については「大人になって身に付けるのではなく、就学前の幼児期から意識して子育てすることが大切」と言われています。これら基礎的な能力の上に、「対人技能」「基本的労働習慣」「職業適性」が必要になってきます。

将来、円滑な社会生活を営み、就労自立できる力を備えた18の春を迎えられるよう、歩みを進めていきたいですね。